（別紙様式）　　（Ａ３判横）

平成２９年度　学校自己評価システムシート（県立いずみ高等学校）

目指す学校像	豊かな地球環境を未来に引き継ぐという明確な意図のもと、グローバルな視点を持ち、生物資源の確保と活用及び、環境の保全と創造に貢献できる人材を育成する。

重点目標	1　普通・専門教科それぞれの授業の質を高める（学力向上）とともに、キャリア教育を充実させ、将来にわたって学び続ける意欲をもった生徒を育てる。 2　「時を守り、場を清め、礼を尽くす」を実践し、プロフェッショナル人として、規範意識を高めるとともに、他人を思いやる心等、豊かな心を育成する。 3　教育内容や特色・強みを地域社会に発信し、地域との協働による開かれた学校づくり・教育活動を推進する。

達成度		
	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し　（４割以上）
	D	不十分　（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	３名
	生徒	６名
	事務局（教職員）	１３名

※ 重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価

年度目標

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	入学時点で、生徒の学力幅は、大きい。資格取得などに意欲的に取り組み国立大学や公務員など、希望進路を実現してきたが、家庭学習の習慣がなく成績不振の生徒が一定数おり、減少できていない。 指導の工夫・改善により授業の充実とキャリア教育の推進により、生徒に課題解決能力を育み、第一志望の進路を実現できるように、継続的な指導を実践するとともに、自ら進路を考え、実現に向けて主体的に取組む生徒を育成する必要がある。	○教員の指導力向上を組織的に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」の実践を浸透させる。	①公開授業や研修会をとおして教員一人一人の授業の質を高め「主体的・対話的で深い学び」の実践を通して、生徒に課題解決能力を育む。	①授業の分かりやすさと満足度が昨年よりも向上したか。 ①課題研究の成果が報告・発表できたか。
		○進路意識を高め、志高い生徒の育成、将来にわたって学び続ける生徒の育成に取り組む。	②生徒一人一人が目的意識を持って、充実した高校生活が送れるように、ガイダンスやキャリア教育の指導を組織的に行う。また就職から進学まで視野に入れた教育課程の見直しを引き続き行う。	②将来のプロフェッショナルとして、目標を持って努力している生徒の割合が増加したか。 ②進路希望に則した、選択科目のガイドラインが提示できたか。
		○生徒一人一人の希望進路を実現させるために、進路指導部、学年、各学科が連携し、きめ細やかな指導を行う。	③生徒の進路実現に向けて、組織的に補習や面接指導等に取り組む。	③第一希望の進路が実現できたか。 ※生徒アンケートを参考にする。
2	継続的な生徒指導により、全体的に生徒は落ち着いているが、遅刻する生徒が増加している。基本的生活習慣の確立に向けて「時を守り、場を清め、礼を尽くす」指導を行う必要がある。また、豊かな心を育むため、生徒一人一人が活躍できる場をつくり、自己存在感を持たせるとともに、体験的な学習を積極的に行う必要がある。	○組織的に継続した指導により、「時を守り、場を清め、礼を尽くす」の実践に取り組み、生徒の基本的生活習慣の定着を図る。	①「時を守り」「礼を尽くす」の実践に重点を置き、生徒指導部と学年、教科、学科が連携し、継続した指導を実施する。	①各学年と生徒指導部が連携して継続的な遅刻指導が実施できたか。 ②朝のあいさつ運動をＰＴＡとも連携して、定期的に実施できたか。
		○社会性を身につけ、豊かな心を育むために、あらゆる教育活動を通じて、生徒が活躍できる場をつくる。	①各種事業や部活動をとおして生徒一人一人の活躍できる場をつくり、社会性を身に付ける指導をあらゆる教育活動をとおして行う。 ②生徒会や農業クラブ活動をとおして生徒の主体的な活動を促す。	①各種行事や部活動に意欲的に参加する生徒が見られたか。 ②部活動や生徒会、農業クラブの活動への参加状況が向上したか。 ※昨年の状況と比較する。
3	ＨＰや学校説明会、出前授業、各種イベントにより、本校の特色ある教育活動を積極的に発信してきた。しかしながら、本校の知名度は低い状況にある。 このため、学校説明会の充実を図るとともに、各種メディアを活用して本校の教育活動の状況を発信していく必要がある。	○ＨＰを改善するとともに、本校の特色ある教育活動をあらゆる機会を活用し情報の発信を積極的に行い、本校の知名度をあげる。	①HP の充実を図り、本校の教育活動を積極的に発信する。 ②学校説明会、中学校訪問をとおして、中学生に本校の教育活動を積極的に PR する。 ③各種メディアを活用して、本校の教育活動を発信する。	①HPの更新回数を昨年に引き続き100回以上行う。 ②学校説明会や文化祭への参加者が昨年より増加したか。また入試倍率が1.1倍以上となったか。 ③新聞への掲載回数が昨年より増加したか。

年度評価（2月8日 現在）

評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
①授業の分かりやすさと満足度は昨年と同程度である。 ①全員が課題研究の成果をプレゼンにまとめて発表を行った。各学科の代表による課題研究発表会を実施。	B	課題 ・家庭学習をほとんどしていない生徒が 42%いる。（昨年 38%） ・目標を持つことができない生徒が依然として多い。 ・生徒の多様な進路の実現に向けて、学年・進路・学科が連携しきめ細やかな指導を行う必要がある。
②目標を持って努力している生徒は昨年より 5%増加した。 ②選択科目のガイドライン作成を検討してきているが、現在のところ提示までには至っていない。	B	改善策 ・学科選択・選択科目を選ぶ際にキャリア教育と連動し体系的に指導を行い生徒に目標を持たせる必要がある。 ・進路志望を実現しやすい教育課程の編成を行う。
③第一希望の進路が実現できた生徒は 88%であった。	A	
①全教職員が一体となって遅刻指導と立哨指導を実施した。結果、遅刻者を減少できた。 ②PTA と連携し、朝のあいさつ運動を計画的に実施した。	B	課題 ・「時を守り」「礼を尽くす」指導を徹底させるために、全教職員が一体となった指導を行う必要がある。 ・部活動の参加率がまだ不十分である。 改善策 ・基本的な生活習慣を確立するために、さらに教職員が一体となって取り組まなければならない。 ・部活動の活動内容を見直し、さらなる魅力づくりに努める。
①部活動に意欲的に参加する生徒は、昨年と同様の 40%であった。 ②生徒会本部役員への立候補者が増加した。（13 名から 19 名） 農業クラブの各種競技に参加する生徒が増加している。	B	
①HP の更新回数は約 250 回で、アクセス数 6 万件である。 ②学校説明会への参加者数が昨年度の 1.1 倍となり、12 月 15 日現在の入試倍率で 1.1 倍となった。（昨年 0.96 倍） ③新聞への掲載回数は昨年と同様であった。他の機関誌等へは掲載は３件あった。	A	課題 ・本校の知名度は、市内の中学生においてさえ低い現状にある。 ・専門高校を理解している中学校教員が少ない。 改善策 ・中学校の教員に本校の HP の閲覧と来校を促す方策が必要である。 ・いずみニュースを中学校に郵送する。

学校関係者評価

実施日　平成30年2月8日

学校関係者からの意見・要望・評価等

- 選択科目のガイドラインについては、早急に作成したほうがよい。
- 生徒アンケートからは、学校生活に前向きに取り組んでいる生徒の様子が読み取れた。そのうえで、生徒のいろいろな側面をクロス集計して調べると良い。
- 魅力ある授業とはどのようなものなのか、生徒側と教師側の意見の一致はあるのか。
- 朝勉強会などの優れた活動は、組織的な取り組みにして継続性を持たせることが大切である。
- 校長から「時を守り」「場を清め」「礼を尽す」という新しい目標が示され、着実に推進している様子が理解できた。
- 保護者として、本校は特色があって良い高校であることを、子どもとともに感じている。
- 生徒と教師がディスカッションして同じ目標をもち、同じ方向を向くことが大切である。
- 本校が魅力ある学校であるにはどうすればよいか。学校行事やあいさつ運動などは、生徒が中心になるべき内容である。見直しながら具体的に実践していくことが大切である。
- 来年はいずみ高校に改編して 20 周年の節目を迎える。「いずみ愛」を生徒・教師ともに一緒になって祝ってほしい。生徒会も何かしてほしい。
- HP の改善がなされ見やすくなった。内容が充実した。スマートフォン対応も確認できた。学科紹介は統一感がないので、学校案内を手本に統一するとよい。